# TACパワーアップ大会2011開催！

**今年で4回目となるTACパワーアップ大会。TACの活動の定着化も進み、次なる展開が重要になっています。**

JAグループ
TACパワーアップ大会 2011
TAC

### 大会宣言

一、担い手と一緒に、地域の絆を深めます。
一、担い手と一緒に、JAグループの事業をより良くします。
一、担い手と一緒に、食と農の懸け橋になります。

JA全農は、11月24、25の両日、「TACパワーアップ大会2011」を東京都港区の品川プリンスホテルで開催しました。地域農業の担い手に出向くJA担当者（愛称TAC）を対象とした第4回の全国大会では479名が参加しました。24日は、審査委員会によって決定されたJA・TAC表彰式、受賞JAによる事例発表・パネルディスカッションが行われました。25日は、受賞TACによる事例発表、東日本大震災被災地における活動報告、テーマ分科会が行われました。

開会あいさつでは、JA全農の中野吉實経営管理委員会会長が、TACの活動が毎年拡大・定着化していることを強調。「農家の要望に真剣に応える体制が出来上がってきた」と話しました。また今後とも、地域の活性化と担い手農家の手取り向上に向け、販売力の強化や低コスト生産などのTACのさまざまな提案を、支援していくことを誓いました。

来賓あいさつでは、コープネット事業連合の赤松光代表理事理事長が、TACの活動を評価した上で、「生産者と消費者を結ぶ懸け橋となってもらいたい」とTACへの期待を語りました。国産農畜産物の自給率の向上に向けて、さらなる連携を呼び掛けました。

基調講演では、野菜スイーツ専門店「パティスリー ポタジエ」の柿沢安耶オーナーパティシエが、「お米と野菜の可能性～日本の美味しい農産物を食べて元気に！」と題して、国産農産物を材料にしたお菓子づくりの事例を紹介。農産物の新たな販路の可能性を広げる活動として、参加TACからも好評でした。

全農会長賞を受賞したJAとぴあ浜松の鈴木一記営農指導課係長は、同JAのTACの活動実践事例を紹介しました。「TACの活動を見える化するために、担い手への訪問記録をデータ化し毎月の会議で公表。TACの意識を高めると同時に、『TACが訪問して来ない』『指導に来ない』といった農家からの苦情がピタリとなくなった。ルールを決め、それを実行していくことが重要だ」と訴えました。訪問活動が増え、訪問のかたよりが無くなったことで販売・購買とも実績がアップ。特に、肥料農薬では、JA全体の伸びが1・3%だったのに比べ、TACが担当している農家の伸びは10・8%と大きな成果を上げたことを報告しました。

活動を見える化し実績を上げる
JAとぴあ浜松 鈴木一記係長

野菜を使ったスイーツで人気の
「パティスリーポタジエ」柿沢安耶オーナー

TACの活動への期待を語った
コープネット事業連合 赤松光理事長

担い手対策への注力を誓う
JA全農 中野吉實会長

### TACパワーアップ大会2011活動表彰

**JA表彰** ※✿全農会長賞

| | |
|---|---|
| 岩手県 | 新岩手農業協同組合 |
| 茨城県 | 常総ひかり農業協同組合 |
| ✿静岡県 | とぴあ浜松農業協同組合 |
| 滋賀県 | レーク伊吹農業協同組合 |
| 京都府 | 京都丹の国農業協同組合 |
| 島根県 | いずも農業協同組合 |

## TAC表彰 受賞者（取組事例要旨）

### 兵庫県 兵庫南農業協同組合

経済部 明石播磨営農経済センター 係長

▷▷▶**伊藤 寛 氏**

**取り組み内容** キャベツ産地維持への取組みと、若い後継者や新規生産者獲得に向けて

若手の担い手からの要望を受け、安定した収入を得るための品目として、加工・業務向けのキャベツ契約栽培を提案。関係部署と連携し、JAレンタルコンテナによる出荷資材のコスト削減や市場共撰出荷にとらわれない契約栽培の販売チャネルの開拓によって、安定した収支を得られるようになりました。この結果、従来の市場出荷向けの面積に加えて、加工向け46aが面積拡大しました。後継者や新規生産者に取組み易く工夫したことで、今後さらなる規模拡大への道筋をつけています。

### 京都府 京都丹の国農業協同組合

営農経済部 営農企画課

▷▷▶**澤田 誠 氏**

**取り組み内容** 米農家への良食味米栽培提案

良食味米を作りたいという農家の強い思いを聴き取り、TACが中心になって担い手をとりまとめ「良食味米研究会」を組織しました。良食味米の生産面では、土壌分析にもとづく土づくりや施肥指導に取り組みました。販売面では、良食味オリジナル米の「ブランド化」に取り組み、食味に関心の高い米穀店を中心に新たな販売チャネルを開拓。担い手から、「JAらしい取り組みができている」との評価とともに資材購入（土づくり肥料135t、専用肥料45t）や米の集荷向上にもつなげるなど、JAの実績にも貢献しました。

### 静岡県 とぴあ浜松農業協同組合

花き営農センター

▷▷▶**大石 佳世 氏**

**取り組み内容** 日本最大のクルクマ生産地をめざして

担当する花きのクルクマを生産している担い手への訪問面談から、産地強化・販売力強化の必要性を見い出しました。市場や花屋に向けた産地PRのPOPを作成し、知名度の向上に努めました。また消費者に向けては静岡空港での展示・市場販売イベントの実施に取り組みました。イベントを通して産地にまとまりが生まれ、平成19年度をピークに右肩下がりで推移していた出荷数量・販売金額がともに上向きへ転じ、生産者数の増加や栽培面積の増大（平成22年5,580坪⇒23年6,886坪）につながり、担い手の生産意欲の向上につながりました。

### 岩手県 岩手中央農業協同組合

営農販売部 担い手支援対策課

▷▷▶**北條 金一 氏**

**取り組み内容** 新品種“南部一郎かぼちゃ”栽培導入による地域の特産化を目指して

担当する水稲中心の営農組合への訪問面談から、転作作物（麦・大豆・ソバ以外）の品目拡大、集落の余剰労力や休耕農地の有効活用の要望を聴き取りました。そこで、関係部署と連携し、日本在来種のカボチャを改良した「南部一郎かぼちゃ」の作付けを提案しました。低コスト生産が可能で水稲作業との競合も無く、全農県本部の買い取り販売で安定した価格での販売につなげるなど、JAの実績にも貢献しました。今後、製造加工を含めた地域6次産業化への検討に取り組む動きにも期待が高まっています。

### 愛媛県 うま農業協同組合

営農部 営農指導課 地区担当課長

▷▷▶**合田 仁 氏**

**取り組み内容** さといもの作付拡大と共販率向上に向けたTACチームによる生販マッチング

平成21年からサトイモ「伊予美人」を栽培しています。高齢化や後継者不足、農作業の機械化未整備の課題がありました。そこで、省力化の試験や、機械の開発に取り組みました。結果、10a当たり40時間の作業短縮、186haから203haへ産地拡大を実現しました。また、消費者とのつながりを強めるため、量販店で郷土料理「いもたき」の試食宣伝・食味アンケートを行い、生産者へフィードバックしました。農家の所得向上のために何をなすべきか。農家訪問を通じ、生産から販売まで相談できるTACであり続けたいと考えています。

### 兵庫県 みのり農業協同組合

加東（かとう）営農経済センター 係長

▷▷▶**松本 善嗣 氏**

**取り組み内容** JA直売所を活用した周年栽培メニュー提案による農業所得拡大（「もうかる営農プラン」の提案）

担当している地区の大半は、直売所「ふれすこ」の出荷会員です。出荷品目の重複による売上の伸び悩みの課題を抱えていました。そこで、自店の不足品目を探り年間を通じて必要とされるキャベツなど主要品目7品目12品種を決定。「種苗費の半額助成」「セル育苗で栽培提案」「種子の供給」を担い手支援策として取り組み、組合員の売上が最大499%増となりました。今後は、若手担い手のグループ「青年ファーマーズ交流会」を作り、新たな産地振興に向けた拠点として動き出しています。

### 滋賀県 グリーン近江農業協同組合

営農事業部 営農企画課 調査役

▷▷▶**田井中 寛和 氏**

**取り組み内容** 集落営農の法人化支援と新規作物の提案

担当する集落営農組織から、法人化に向けた支援をしてほしいという要望を聴き取り、関係部署と連携して、法人設立を積極的に支援。法人設立後もその法人にJAが出資するなど密接な関係を築けました。定期総会などから、集落や経営の状況把握を行い、作業の効率化や新たな作物（加工馬鈴薯）提案、カルビーポテトとの契約栽培（馬鈴薯2.4ha）に結び付けるなど、法人の販売チャネルを開拓できました。また、TAC間で連携し、JA出資法人連絡協議会も設立できました。

### 岩手県 岩手中央農業協同組合

営農販売部 担い手支援対策課

▷▷▶**高橋 政勝 氏**

**取り組み内容** 水田転作における収益改善

担い手から、収益を確保し安定生産可能な水田転作作物の選定を相談されました。そこで、担い手へ意向調査をし、飼料用米に取り組むことを決めました。米穀部署や全農と協議し販売先・作付品種・集荷方法などの体制を整備、担い手に対しても、途中経過を小まめに報告しました。結果、収益の改善・経営安定ができました。今後は、経営相談や新技術の提案や、集落営農組織への支援を強化していきたいと考えています。

全国農業協同組合連合会 営農販売企画部 TAC推進課 TEL：03-6271-8276 URL：http://www.zennoh.or.jp/

---

# パネルディスカッション

表彰を受けたJAの役員の方々に集まってもらい、JAにおけるTAC活動の体制づくり・TACへの期待などについて、語ってもらいました。

進行

JA全農 常務理事
岩城 晴哉

パネリスト

岩手県 JA新いわて 常務理事
小野寺 敬作 氏

茨城県 JA常総ひかり 常務理事
石塚 誠 氏

静岡県 JAとぴあ浜松 常務理事
源馬 伸一 氏

滋賀県 JAレーク伊吹 代表理事理事長
中川 清之 氏

京都府 JA京都にのくに 代表理事専務
迫沼 満寿 氏

島根県 JAいずも 常務理事
岡田 達文 氏

**■ JA全農／岩城常務**

TACは、「担い手の要望を聴き、課題解決に取り組む」というJAにとって非常に重要な仕事をしています。そうした活動を進める中では、役員の理解や各部門へのバックアップが欠かせません。TACの取り組みや、JAの体制づくりについて、日ごろ意識していること・ポイントなど教えてください。

#### TACに目的意識を持たせ、全体をレベルアップ 金融渉外担当との連携を大切に

**■ JA新いわて／小野寺常務**

TACは昨年度まで、管内7か所の営農経済センターに配置していました。今年度からは、課題の分析と解決を強化するため本所営農経済部の所属としました。TV会議などを織り交ぜ、毎月定例会議を開催して、TAC全員に対して、目的意識を持ってもらい、全体のレベルアップを狙っています。

農家の要望に応えるために、金融渉外担当とTACとが協力し、資金相談・経営相談にも乗っています。担い手や大型園芸農家などに対しては、全農県本部（県域TAC）と同行し、規模拡大に向けた対策を実施しています。また、今後の展開を考え、若年層や女性層を起用したTACの体制づくりも検討しています。

#### 担い手からのアドバイスにもとづき展示会開催、好評博す

**■ JA常総ひかり／石塚常務**

平成10年に、TACの前身となる営農経済渉外員を設置しました。現在は9人のTACが、園芸地帯を中心に圃場、育苗ハウスの巡回指導、生産者宅への巡回訪問をしています。特に後継者とのコミュニケーションを大事にして、苦情・要望を聴くようにしています。後継者のアドバイスから、TACが企画・運営し、秋冬野菜の作付前に地元のライバル店より早く園芸資材の展示会を開きました。450人が来場、約6,000万円を売り上げました。組合員からも大変好評でした。

労働力の確保、記帳代行など、担い手の経営面の支援にも取り組みながら、お役に立てるように頑張っています。

#### 「実績そのもの」ではなく「過程」を重視 訪問を欠かさず担い手との信頼を構築

**■ JAとぴあ浜松／源馬常務**

営農指導を強化して農家所得の向上を助け、地域農業を振興することは、JA、そしてTACの使命そのものです。農家に積極的に出向くことで信頼関係を築く。全ての根源は訪問活動です。

一方、どんな事業もノルマや実績だけを追及すると必ず事業に歪みが生じます。そこで、実績そのものではなく、活動プロセスを追う「プロセス管理」という概念が必要になります。

当JAでは地域農業の担い手を定期訪問農家と位置付け、必ず月1回以上訪問するという決まりがあります。この2年間、TACには、いかなる理由があろうと訪問だけは徹底して行うという単純明快な職務を課してきました。その結果、TAC1人当たりの農家訪問回数が35%アップし、実績も販売高が15%、購買高（肥料農薬）が11%伸びたのです。

今後は大型農家の経営支援にも対応できるスーパーTAC、低未利用農家を開拓する戦略的TAC、小規模農家にも柔軟に対応できる渉外的TACなど、多様化する担い手にしっかり対応できる体制を構築し、同時に、TACが自らの将来像を描き、自発的にレベルアップできる人事制度も作っていきたいと考えています。

#### 円滑なマネジメントでTACの機能を発揮 担い手の声を知るTACはJA人材のコア

**■ JAレーク伊吹／中川理事長**

支店の統廃合によって、組合員がJAから遠くなり、利便性が低下することから、JAが組合員に出向く体制を強化する必要がありました。担い手のニーズに応えた個別事業提案や問題解決が必要です。職員には、TACの活動の重要性と意義を唱えています。

TACに必要なものは、コミュニケーション能力です。そのため、私どものJAでは、TACはLA出身で、今まで営農・経済未経験者を抜擢しました。

月例のTACミーティングには、専務と担当理事が必ず出席します。活動実績は、役員にまで報告することになっています。情報を共有し、さらに、課題があればJA内で協議します。

TACは担い手を対象に、JAの総合事業を展開するようなものです。しかし、TAC完結で何でもできるわけではありません。TACは、各部署間のコーディネーターだと考えています。TACの機能をうまく発揮させるためには、風通しを良くし、各部署間の円滑な連携を促すマネジメントが非常に重要です。

TACを経験した職員は、真の意味で組合員の生の声を日々聴き対応しています。組合員から信頼される職員として、今後のJAを担うコアの人材になると考えています。

#### TACの訪問が担い手の「ステータス」に 直売所出荷者など多様な担い手を育成

**■ JA京都にのくに／迫沼専務**

12,000人の正組合員のうち、TACが訪問しているのは200人程度。割合としては1.6%ですが、訪問先の販売高はJA全体の32%、購買率は11%となっています。TACの訪問先ではJA利用が拡大しています。

TACは、現在JAを利用していない担い手も積極的に訪問しています。TACの訪問を歓迎し、「ステータス」として感じてもらえているようです。「良食味米研究会」を立ち上げ「米夢（マイドリーム）」というブランドを担い手とともに作り上げました。

また、大規模農家や法人だけでなく、京野菜などを中心とした小規模な園芸農家や農産物直売所への出荷農家なども多様な担い手と位置づけ、対応を強化しています。

当然、将来の担い手である新規就農者に対し就農と同時にJAの存在価値を示しています。

さらに、定年帰農者や野菜作りを一から勉強したい方を対象にした「野菜の学校」を開催。今年で5年目となりました。36名が熱心に受講しています。1期生から4期生までに99名が卒業、その中から多くの販売農家が生まれています。

#### JA内外問わずTACの活動を紹介 TACへの理解を深めて事業に寄与

**■ JAいずも／岡田常務**

理事会や、年に2回開く全役職員集合研修会で、TACの活動を紹介しています。組合員に対しては、冬季座談会・組合員大会、毎月発行している広報誌などで、TACの活動を報告しています。そのおかげでJA内外のTACへの理解も深まり、事業に寄与しています。

週に一度のミーティングに加え、月に一度、月間の活動内容の検証、翌月の活動方針の決定を行います。参加者は、私を含め、全農県本部、営農担当部課長、5つの営農センター長、行政とJAで組織する農業支援センターの担当者です。

担い手からの意見・要望については、即対応・即解決を心がけ、スピード感を大事にしています。金融・共済・購買事業などJA事業全般での課題や問題については、関係部署につなぎ、解決に向けて行動しています。

今後とも、数字的なノルマよりも、組合員との信頼関係の構築により事業増大をめざします。

# 参加者による 分科会

日々担い手に向き合い奮闘するTAC・県域TAC約350人が、テーマに分かれて分科会に参加。今後のTACの活動の充実に向け、いかに実践・行動していくか、熱心な議論が交わされました。

### ◀テーマ一覧と討議内容

**①生販マッチング・販路拡大について**

- マルシェ・ファーマーズマーケットへの出店や、試食会などのキャンペーンの開催などを展開する。
- 規格外品の加工販売を進め、六次産業化の取り組みを強化する。（その際、設備投資が必要な場合は、信用事業との連携や補助事業を活用）
- JAグループ一体となった活動の展開が必要。（JA全農を窓口に、食品メーカーや生協・量販店などと連携する。各組織ごとの役割を明確化する）

**②新規作物・水稲転作提案について**

- 市場・実需者との情報交換を密にし、需要動向を調査したうえで新規作物を提案する。
- 全農が開発した農業経営意思決定システム（Z-BFM）を活用し、新規作物導入時の経営をシミュレーションする。
- 設備投資が少なくてすむ作目や、女性や高齢者が取り組みやすい作目を提案する。

**③新規就農支援・農作業支援について**

- 新規就農者の受け皿として、JA出資法人を立ち上げる。
- 行政との連携が必要不可欠。支援資金の情報提供や、技術学習の場として、新規就農者向けの「塾」を開校する。
- 機械のリース・雇用や農地のあっせんなど積極的に展開する。

**④農家経営改善・法人化設立支援について**

- 記帳内容を見せてもらい、農家の経営状況を把握し、アドバイスできるようにする。
- TACは、法人化における具体的なメリット（税制など）を整理し、伝えられるようにする。
- 法人化に向けては、JAの支援が重要。（経理・税務上の支援・資材の支援・特産品目の導入支援など）

**⑤新資材導入・省力低コスト技術普及について**

- 新商品の実演会を開催するなど、効果を目で見てもらえるようにする。
- 新資材に関しては、農産物の収量アップや等級アップなど含め、年間を通じた収支を計算し、コスト減につながることを提案する。

**⑥担い手向け情報誌・注文書について**

- グリーンレポートなど情報誌は農家との面談のきっかけとなる。
- 他県・他地域を含め、幅広い情報を自ら作る担い手通信に掲載することが重要。連合会と連携し、情報提供することも必要。

### TACの声

今回の分科会メンバーでまた話し合いたい。今回の情報交換を踏まえ、どのように成長できたか確認し合いたい。

---

自分の抱えていた課題に対するヒントが得られ、多くの人との検討は、非常に有意義でした。

---

JA域・県域を越えて情報共有できるのは、非常に嬉しいことでした。TACの活動のモチベーションも上がりました。

## TAC新人表彰 受賞者（取組事例要旨）

### 愛媛県 東宇和農業協同組合

営農部 指導課

▷▷▶**角藤 慎一 氏**

**取り組み内容** 耕作放棄地問題から南瓜栽培面積拡大への取組み

カボチャ部会の担い手から作業軽減の要望を受け、課題の解決に努めるとともに葉たばこ廃業者の耕作放棄地のあっせんによる面積拡大を提案しました。生協や業務筋へと販路を広げ、規格外カボチャの加工用（焼酎用）出荷などを通し、担い手の手取り向上につなげました。

### 滋賀県 おうみ冨士農業協同組合

野洲（やす）営農センター 営農購買課

▷▷▶**森 雄也 氏**

**取り組み内容** 信頼関係の向上を目指して

いずれ地域の代表格となる若い担い手を積極的に訪問しました。生産資材のJA利用が低い担い手でしたが、周囲への影響力も考えぜひともJAファンにと考えました。省力施肥技術や選果機の導入、学校給食への出荷による有利販売、農業者年金の加入を提案した結果、生産資材の利用率が向上し、他の農家への推進のきっかけを得られました。

### 岩手県 いわい東農業協同組合

営農部 農政対策課 考査役

▷▷▶**三浦 二三男 氏**

**取り組み内容** 雇用創出による組合員の所得向上を目指して―ピーマン導入による経営の高度化―

集落営農組織からの「経営の複合化による継続的な雇用を実現したい」との要望から、夏場のピーマン導入による課題解決に取り組みました。担い手に的確な情報を提供するなどして、JA選果施設の利用による系統共販への誘導も図りました。

### 佐賀県 佐賀県農業協同組合

みどり地区 杵島（きしま）営農事業所 営農課

▷▷▶**田中 茂 氏**

**取り組み内容** 経営面積拡大のための大型規格品によるコスト低減提案

戸別所得補償制度による規模拡大で、大型機械の導入、農地の利用集積が進んでおり「コスト低減」が大きなテーマでした。そこで水稲のBB肥料・ペースト肥料の工場満車直送や、麦の生石灰1tフレコンなどを盛り込んだTAC専門注文書での予約活動を実施しました。コスト低減の情報提供をし、担い手の意見要望を常勤役員へ伝え、要望が実現したことから、JAに対する担い手の見方が良くなっていきました。これからのTACの活動で心掛けたいことは「議論は短く、結論は早く」「悪い面ばかり考えず希望を持って前向きに考えること」です。

**TAC**（タック）とは、『地域農業の担い手に出向くJA担当者』の愛称です。

**TACの役割**

①地域農業の担い手に訪問してご意見・ご要望をうかがい、誠実にお応えします。 ②地域農業の担い手の経営に役立つ各種情報をお届けします。 ③地域農業の担い手のご意見を持ち帰り、JAグループの業務改善につなげます。

**TACの由来**

Team for Agricultural Coordination
JAグループが一体となって地域農業をコーディネートします。

TAC表彰は活動経験1年以上、TAC新人表彰は活動経験1年未満のTACに贈られます。

### 兵庫県 みのり農業協同組合

多可（たか）営農経済センター

▷▷▶**藤井 一樹 氏**

**取り組み内容** 新たな特産品開発（にんにくの特産化）に向けて

ニンニク生産の担い手から要望を聴き取り、JAで出荷調製作業を請け負うようにするなどして、担い手の作業量を低減し、販路拡大のために地元量販店などと折衝。加工品開発に向けたJA女性会などとの連携なども進めました。

### 山形県 天童市農業協同組合

営農部 担い手支援TAC・農地集積推進課

▷▷▶**武田 友彰 氏**

**取り組み内容** ブドウの環状剥皮（はくひ）処理で品質・収量アップ―すべては情報の提供から―

高温障害によってブドウ「デラウェア」「ピオーネ」の着色が悪くなり、生産の3割が出荷できない課題に対し、環状剥皮処理を提案。結果、着色が良くなり品質向上にも寄与。需要の高いお盆時期の出荷が可能になり、担い手の収益向上に貢献しました。

### 熊本県 八代地域農業協同組合

経済事業本部 経済渉外課 審査役

▷▷▶**木村 美敏 氏**

**取り組み内容** 組合員意思の尊重とJA組織体としての取組

イ草、水稲を栽培するJA利用が低い認定農業者にアプローチ。部会組織活用の案内を切り口に、生産管理・市場価格・農業経営などの相談を受け、JAの指導・販売部門と連携しながら信頼関係を構築できました。本音で語ってくれるようになった担い手の意思を尊重しつつ、TACを窓口としたJA一丸となった対応が新規の共販者を獲得することにもつながり、担い手80名の全体販売高が前年比21%（2億9200万円）増加し、JAの事業にも貢献できました。

全農 全農グループ経営理念
私たち全農グループは、生産者と消費者を安心で結ぶ懸け橋になります。